

# 日本におつたらわからないうことが見えました

タイ イに行つてきました。久しぶりの東南アジアです。

日本とは、六〇〇年の交流の歴史があるそうです。江戸時代の前期は山田長政という武将が、タイで活躍した記録もあります。

そして期せずしてなんんですけど、二〇一七年は、明治時代に日タイ修好宣言を結んで一三〇周年になるそうです。まさにおめでたい年なんです。

何故かしらん、こういうの、僕はいつも運がええわねえ。行動するにもつてこいの年なんですね。

確か一五年前に訪ねたことがあるんですけど、そのときと比べると、高いビルがぎょうさん建つてました。日本がこの繁栄に貢献したのはまちがいないことです。なんせ歴史ある友好国やからね。

そやけど、近年は、中国の影響が強まり、日本人街がさびれつつあります。

日本が進出してた工業団地も、よう報道されてた二〇一一年の大洪水の後は、撤退する企業もあり、カラオケなんかも、中國人の客が増えてるといいます。

そんなときやからこそ、日本の存在意義を示さんといけないのやないでしょうか。

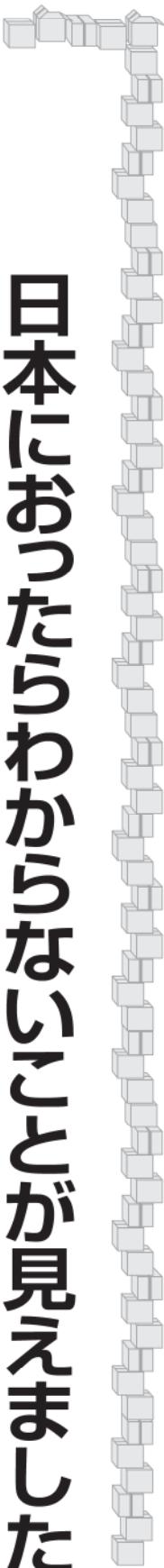
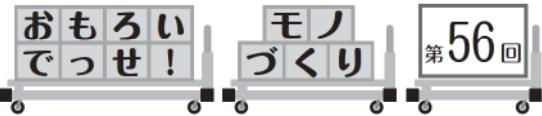
さて、僕が何故タイに行つたかというと、当然、遊びやあり

## 日本でつくつた無人機を タイと共同開発したいんです

さてさて、本題に入らないと。「すぐ話が横道にそれてしまいますが、違うんです。同時にいろんなこと考えてるんで、それが出てしまうんです。

あれまた、それでしもうた。

そもそも、僕が今回訪れたのは、無人機の共同開発をしたかつたからなんです。





●(株)アオキ取締役会長

## 青木 豊彦 (あおき・とよひこ)



1945年大阪府生まれ。1997年(株)アオキは航空機メーカーのボーイング社の認定工場に。また東大阪の技術力を生かし、人工衛星「まいど1号」を開発、2009年に打ち上げ成功。その後無人垂直飛行機「AKITU」も開発に成功した。2014年4月、国立和歌山大学客員教授に就任。2016年には大阪市立大学学長特別顧問に就任。現在は(一財)ものづくり医療コンソーシアムの理事としても活躍中。

ご存知の方もいらっしゃるでしょうけど、僕は人工衛星「まいど1号」の後、無人飛行機を開発しています。VTOL、つまり垂直離着陸機です。垂直に離陸できるから、飛行場も短くてよく、いろいろ用途が考えられます。

日本でつくったこの無人機の改良版を、タイと共同開発したんです。この思いを、僕はタイ政府の要人の前でプレゼンテーションしました。

ちなみに、日本の大企業のプレゼンは、わが社はこんな技術を持ち、こんなことができる、こんな優秀な製品をつくる、といいうのが一般的ですが、僕は違います。「僕はこんな男やから信用してくれ。だから一緒にやりませんか」といったアピールが中心です。

自慢やありませんが、僕は相手にぶつかるのは得意です。こことやと思った会社を、逃がしたことはありません。

それと、それを生かして事業を具体化したり、販売促進することは、また別の人には頼みますけどね。

### 下請け仕事を脱して アイデアでどう生きていくかが勝負や

モノづくりにかかる開発や研究には、当然、人、モノ、金が必要ります。そやけどそれよりも僕は、熱意が第一と信じています。行ってわかったのは、日本の大手企業は、お金にならないことはやらないし、出向先は自分で決めないから、決定が遅くなり中国にやられてしまいがちなんです。

それなら、中小企業のウチがタイに出向いて、研究開発の会社をつくり、無人機の共同開発をしようと。それが日本のためにも、タイのためにもなればいい、と思いました。

当然、そのためには日本の中でも、応援してもらわなければなりません。

これは、今後の中小企業のひとつの生き方になれば、と思います。もう日本では、労働集約的な仕事はなくなっていくでしょう。下請けの仕事を脱して、アイデアでどう生きていくか、が勝負やと思います。

わずか二泊五日のタイ訪問でしたが、日本との友好や中国の大きな影なんて、大阪におったら、普段、わからないことがいろいろ見えてきました。タイ政府の要人からも、よい感触を得ました。

この機会を得て、またいろいろ仕掛けを考えんと、と思うたタイの旅でした。

「ところで、バンコクの夜はどうやつたんです」と、ここで東京のおっちゃんのツッコミが入りました。  
思わず「だめだなあ君は。そんなことばかりしか考えてないのか」と標準語でたしなめてしまいました。  
でも、僕が標準語使うと嘘くさいですなあ。  
ほんまに。



●タイ政府の要人と会談